【註】 quite as good a teacher (as his brother) 「兄弟と全く同じ位に良い教師」「兄弟に劣らぬほどの良い教師」。若し"not quite so ~as...."となると「..... とは全然同様に....ではない」「幾分劣る」の意。

A is not quite so clever as B.

(Aは Bほどには利巧でない)。

not nearly so good a scholar, as his brother. 「兄弟よりも遙かに劣れる學者」「學者としては遠く兄弟に及ばぬ」。 斯様に "not nearly so ~as" は兩者の優劣の差が大なる場合に用ひる。

#### (譯 例)

彼は教師としては兄弟には少しも劣らないが、 學者としては兄弟の足元にも寄付けない。

## ( 156 )

Let your friends know that whatever you put your hands to will be accomplished, no matter what may stand in the way.

# 〔要句〕

- (a) put one's hands to.....
- (b) stand in the way. Franking
- [註] Let your friends know that=Show your すっ friends that.... 「....な事を友人に知らせよ (示せ)」。

whatever you put your hands to 「どんな事でも 汝の着手する事は」。"put one's hands to" は「....に 手を着ける」「....に着手する」「....に取掛る」。

stand in the way「邪魔になる」。「邪魔にならぬ」

way = whatever obstacle there may be.

#### 〔譯 例〕

汝の着手する事は假令どの様な障害があらうとも何でも成し遂げると云ふ事を汝の友に示せ。

## ( 157 )

A great deal of what passes by the name of patriotism in these days consists of the merest bigotry and narrowmindedness; exhibiting itself in natural prejudice.

#### 〔要句〕

- (a) pass by the name of.....
- (b) consist of .....

【註】 passes by the name of....「....の名で通る」「所謂.....さ云はる」」。 これは又 "go by the name of...." とも云ふ。例:

The Tone river goes by the name of "Bando Taro" (利根川は坂東太郎の稱あり)。

in these days「今日の世の中で」「當世」。

exhibiting itself in....(=which exhibits itself in ....)「....の中に自然と露はれる處の」。 exhibit は「露はす」で「夫自身を露はす」だから「自然に露はれる」。

# 〔譯 例〕

今日所謂愛國主義の名で通つて居るもの」大部

#### ( 158 )

The speech he made was so little to the purpose that I shall not trouble my readers with an account of it.

## 〔要句〕

- (a) little (nothing) to the purpose-
- (b) trouble ~with.....

【註】 little to the purpose「要領を得ない」,"to the purpose"は「要領を得る」。又"to the point"とも云ふ。似寄った句に"to no purpose"があるが、これは「無效」の意。混同せぬ樣注意。例:

- (a) His speech was little to the purpose.

  (彼の演説は殆んど要領を得なかった)。
- (b) My advice was to no purpose.

  (僕の忠告は弦がなかつた)。

I shall not....「....するのは差控える」「....するのを遠慮する」。

trouble my readers with....「讀者諸君に....をして迷惑をかける」「....をして讀者諸君を煩はす」
an account of it「それ(彼の演説)に就ての話」。

# 〔譯 例〕

彼がやつた演説は殆んど要領を得なかつたから して、それを今述べて讀者諸君を煩はすことは遠 慮致しませう。

#### - 199 -

## ( 159 )

You are a man better equal to serious emergencies than any man I ever came near. I perceive that you have hit the nail on the head, as indeed you always do.

#### (要句)

## hit the nail on the head.

【註】 equal to serious emergencies 「いざ鎌倉といふ時に動じない」「事に當つてびくともしない」、「臨機應變の處置のとれる(人)」。

I ever came near「私が近づきになつた」「私が之迄に接した」。「私が之迄に接した誰よりも 臨機應變の處置のとれる人」だからつまり「貴君位臨機應變の處置をとれる人に未だ接した事がない」 き譯せばよい。

hit the nail on the head「頭に釘を打つ」とは批評などが「的中する」「壺にはまる」の意。"nail"の前にright さいふ形容詞を入れる事もある。

as indeed you always do 「貴君は實際何時もさう だが」で、"do" は"hit the nail on the head"の意。

# [例 譯]

貴君ほどに事に當つて動じない人は私は今迄に 接した事がない。なるほど貴君は肯綮に當る事を 云はれた、尤も貴君は何時もさうだが。

# ( 160 )

After he had become a millionaire he often told young men, by way of sugges-

#### (要句)

- (a) by way of.....
- (b) come of age.
- (c) never fail to.....

【註】 by way of suggestion 「忠告の徒リで」「それとなく論すつもリで」。"by way of"は「....のよすがにもとて」に當る。 参考:

- (a) Let us employ him by way of experiment. (まア試験的に雇つてみよう)。
- (b) He wrote me by way of apology.

  (言譯の積りで手紙をよこした)。

但し此の"by way of"は「....を經て」「....經由で」 の如く"via"と同義に用ひられることもある。

I reached there by way of Siberia.

(西伯利亞經由で其處へ到着した)。

came of age「丁年に達した」。「丁年に達して居る」 は "to be of age".

never failed to....の "fail to"は「....を怠る」、 だから「決して....を怠る様な事はなかつた」「必ず.... した」と譯せはよい。

lay aside は「側へ置く」から「(金銭などを) 貯へる」「(學業などを) 等閑にする」の意味になる。 此處では前者の意。

one dollar of each day's earnings 「毎日の稼ぎ高 の中から一弾」。 and to these ... owed his success = he owed his success to these earnings.

## 〔譯 例〕

氏は金萬家になつてから後に、それとなく諭す 積りで青年に度々斯様な事を云つた。自分は丁年 に達した時から、毎日の稼ぎ高の中から少くも一 弗だけ貯蓄する事を決して怠らなかつた、自分が 成功したのは此の金のお蔭であると。

## ( 161 )

He thought it was of no use to work on his farm, for everything about it went wrong in spite of him.

## 〔要 句〕

- (a) go wrong.
- (b) in spite of one.

【註】 it was of no use=it was useless.
work on his farm「畑で働く」「野良仕事をする」「百

everything about it の"it"は"his farm"を 指す。

went wrong 「拙く行つた」「旨く行かなかつた」。 反 對の「旨く行く」は "go well". 参考:

Everything went well with me.

(萬事好都合に運んだ)。

in spite of him を「彼にも拘はらず」と譯しては何の事やら分らぬ。これは、「自分では故意にする積りでなくも自然に....」の意。

例: He cried in spite of himself. (彼は覺えず涙を流した)。

#### ( 162 )

The water was very shallow; so that, in the event of the ice giving way, there was nothing to fear beyond a slight ducking.

#### 〔要句〕

- (a) in the event of .....
- (b) give way.

【註】 in the event of .... (=in case of ....) 「....
の際には」「若しも....なら」。 in the event of his death
=in case of his death=if he dies (若しも彼が死んだら)。
give way は「(床などが)落ちる」「(棒などが)折れる」「堤防などが) 破壊する」の意。總て外力の抵抗に負
ける意に用ひる。此處では (人の重さで) 氷が割れる意。
nothing to fear beyond .... 「....以上に心配になる事はなかつた」「せいぜい....する位の心配」。

dacking は「水をかぶる事」。dack (鴨) が水へもでるより出た語。水へ突込んで人をいぢる事を、"to give ~a ducking"といふ。

## 〔譯 例〕

水は極めて淺かつた。だから氷が割れても少し水をかぶる位の心配しかなかつた。

# ( 163 )

Every-faculty which is a receiver of

pleasure has an equal penalty put on its abuse. It has to answer for its moderation with its life.

#### 〔要句〕

answer for.

【註】 which is a receiver of pleasure 「快樂を受け入れるもの」で、"which receives pleasure"と直した方が譯しよい。「快樂を受ける凡事る官能」とは、吾人が眼で見て美感を得、耳に訴へて美音を聞くが如きを云ふ。

has an equal penalty put on its abuse 「等しき 刑罰をその(官能の) 濫用に課される」とは、官能を濫用すれば、快樂を得ると等しい丈の罰を課せられる」。 いくら甘いからと云つて 矢鱈に食べれば 胃腸を損ふなどの類である。 "bave... put cn"は「...を...される」の意は前述の如し。

auswer for its moderation with its life 「その (官能) の生命を以てその(官能の)程よき使用を請合ふ」とは、「官能を適度に使用しなければ官能の命がなくなる (官能が利かなくなる)」との意。 "answer for...." は 「....を保證する」「....に對して責任を持つ」の意。 次 例を参考:

I will answer for my success with my life.
(成功しなけりや首をやる)。

## 〔譯 例〕

快樂を受けるあらゆる官能はそれの濫用に對し 同様に罰を課せられる。適度に使用せねばその働 きを失ふ様にならざるを得ない。 There are many different kinds of work to do, but so long as the work is honourable and necessary, the man who does it well is entitled to the respect of other men.

#### 要句)

- (a) so long as.....
- (b) be entitled to.....

【註】 so long as..は「....である限りは」「....である以上は」。

Any book will do, so long as it is interesting.
(面白くありさへすればどんな本でもよい)。
"as long as" は「あのである間は」。區別を要する。
Is entitled to....「....に對して資格がある」「....
に値する」。

- (a) His conduct is entitled to praise. (氏の行為は稱諧に質する)。
- (b) I am entitled to the property.

  (私はその財産を貰ふべき權利がある)。

## 〔譯 例〕

仕事は數も多く種類も多いが、定めた仕事が立 派であり又必要なものである以上は、それをよく 果す者は他人の尊敬を受ける丈の資格がある。

# ( 165 )

He always lent a ready ear to the voice

- 205 -

of the people, which showed that he had the good of the country at heart.

#### (要句)

- (a) lend a ready ear to.....
- (b) have -at heart.

【註】 lent a ready ear to....「....に對して快い耳を貸した」とは「....を快く傾聽した」で、これは、"lent an ear readily to...."と考へて課せばよい。lend an ear to=listen to. 又「人の手助をする」を、"to lend a helping hand"などと云ふ。

which showed that.... の "which" は前文全體を受ける。即ち「....に耳を傾けたさいふ事は....を證明した」「....に耳を傾けたといふ事で.....だといふことが分つた」。

had the good of the country at heart.「國家の利益を念頭に置いた」。"have... at heart"は「...を心掛ける」「...を圖る」などの意。参考: I have your interests at heart. (私は君の利害を考へて居る; 君の為めを思つてゐる」。

# 〔譯 例〕

彼は常に國民の聲に快く耳を傾けた。これ取り も直さず彼は自國の利益を念頭に置いた證據であった。

# ( 166

All measures which tend to put ignorance on a par with wisdom inevitably check the growth of wisdom.

- (a) tend to.....
- (b) put -on a par with.....

、【註】 tend to....「...する傾きがある」「鬼角.... する」、

Japan is now on a par with any other power of the world.

(日本は今では世界の如何なる列强にも劣らぬ)。 check the growth of wisdom「智の發達を阻止 する」。

#### 〔譯 例〕

無智と怜悧とを同等に見做す様なあらゆる方策 は勢ひ知識の發達を阻止する様になる。

# ( 167 )

I have learned to spare no labour upon the process of acquiring clear ideas—to think nothing of writing a page four or five times over if nothing less will bring the words which express all that I mean and nothing more than I mean.

〔要 句〕

(a) learn to.....

- (b) spare no labour.
- (c) think nothing of .....

【註】 learned to....「....の習慣をつける」「....する様になる」。「....する事を習ふ」は "learn h.w to..." の様に how が入るりが普通である。

spare no labour 「努力を惜まぬ」「骨惜みをせぬ」。
to think nothing of .... は前の "learne.l" に續き
「....する事を平氣と思ふ」 「....を屁とも思はぬ」。 "to
make nothing of ...." とも云ふ。

if nothing less の次に "than four or five times" を補つてみる。「若しも四五時間以下の時間が... の言葉をもだらさなければ」「四五時間もやらなければ...の言葉が出て來なければ」の意。

expresses all that I mean and nothing more than I mean.

「私っ意味する事の全部を表はし 私の意味しない 事は何事も表はさぬ」つまり「丁度自分の云ひ度いと 思ふ丈だけ」、

# 〔譯 例〕

明瞭な觀念を得る方法には骨骼みをせぬ様になった。また一頁を四度でも五度でも書改める事を何とも思はぬ様になった。若しも丁度自分が云ひ度いと思ふ事を表はす言葉を考へ出すに一囘や二囘では足りなければ。

# ( 168

We must take most things as they are; we can not make them what we would, nor often what they should be.

#### 要 句〕

# take things as they are.

【註】 take most things at they are 「大觀の事を有りの濫に解釋する」「大觀の事をこんなものだと諦める」 即ち ...であるべき筈だ、...でなければならぬなどと思はないの意 参考:

- (a) State the fact as it is. ?
  (事質を有りの識に述べよ)。
- (b) I like it as it is.
  その儘の方がよい)っ

make them what we would 「吾々の欲する處のものにする」「自分の好きなものにする」。"would"=wish. what they should be 「然かあるべきところのもの」。

#### 譯例)

大飢の事はこんなものだと諦めなければならぬ。吾々はそれを自分の好きな様にする事も出來す。また然かあるべき様にするする事の出來以場合も往々ある。

# ( 169 )

She would often scold me for some slight fault, and say that she did it from her anxiety to do well by me.

# 〔要 句〕

- (a) would often .....
- (b) do well by -

【註】 would often... は過去の不規則的習慣を表は す。「よく....する事があった」。規則的習慣を表はすに は"used to"を用ひる。

for some slight fault 「何か些細な落度を厭に取って」っ

she did it の "it" は scold する事を指す。

from ber anxiety to.... 「....したいといふ切なる 心から」で"from"は行為の動機を表はす。 out of と してもよい。

He said so out of malice.

彼は悪意があって云ったのだ)。

do well by~「....の為めを圖る」「....に親切にする」。

#### 〔譯 例〕

彼女は些細な落度を種に私を叱る事が度々あった。そして、叱るのは私の為めを思ふ一心からだと云ひ云ひした。

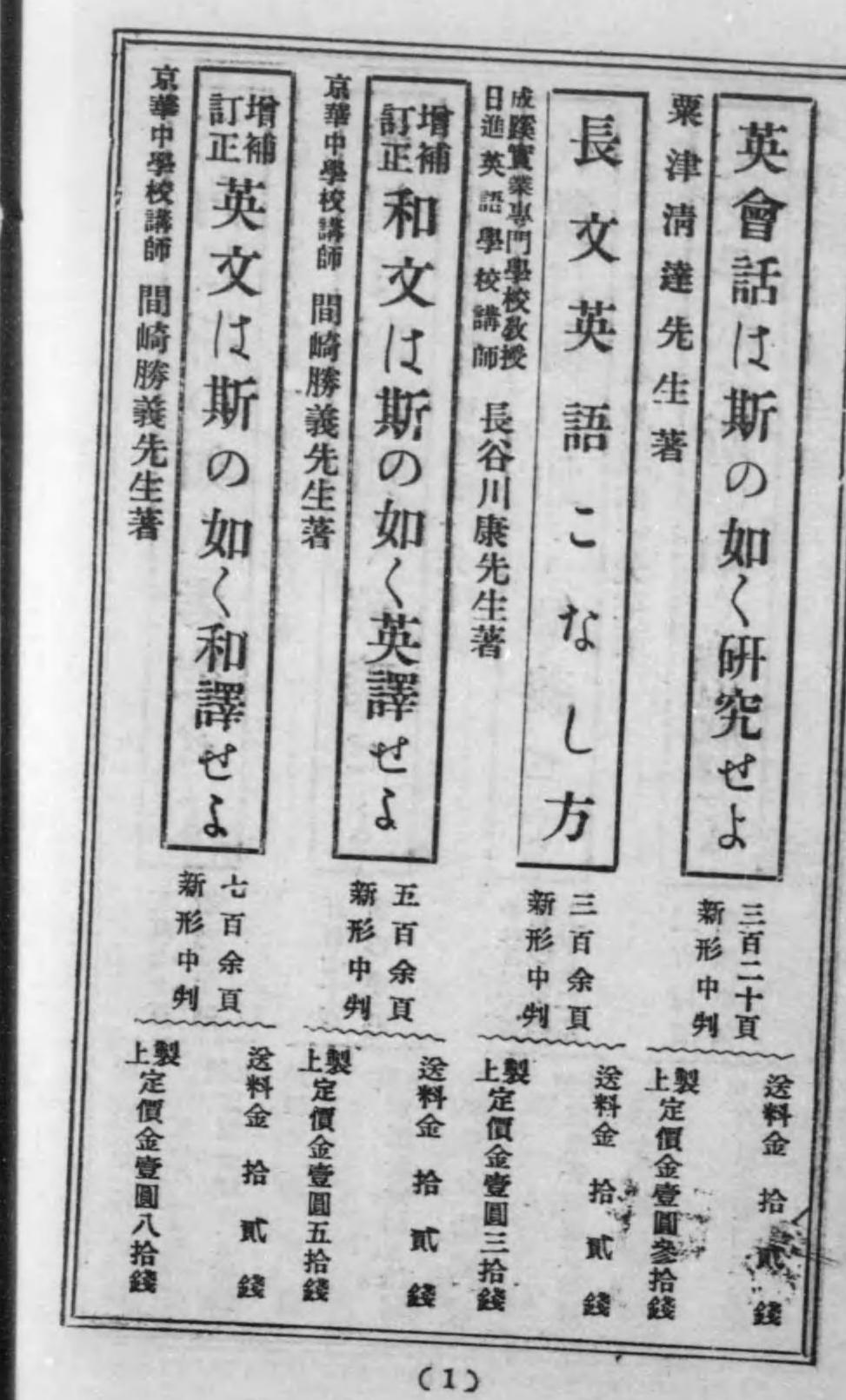
The world

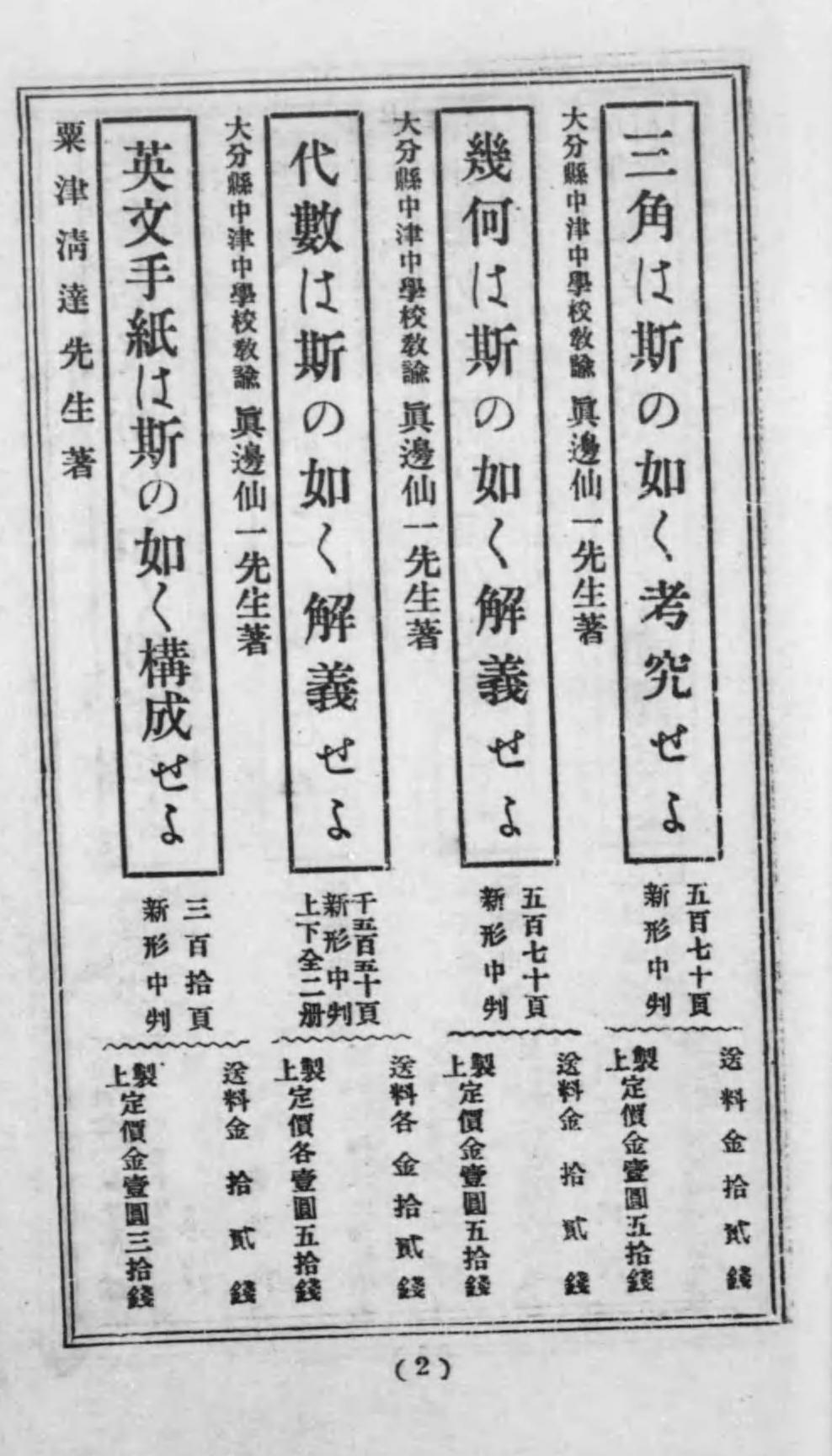
add me for some

大正12年5月10日印刷 大正12年5月15日發行

著 者 鈴 木 芳 松 著 者 给 木 芳 松 文 館 書 店 東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地東京市神田區小川町四十二番地

株式會社吳林館印行





芝中學校教諭 堤 漢文は斯 東京府豐島師能學校教諭 久米卯之彦先生共編東京 芝中 學校教諭 堤 達 也 歴史は斯の如う 中學校教諭 滿木峰丸先生著 文 0 也先生著 研究 研 亦來 究 修 4 9 日の本部 書 新五 新 原全和全文五文五之の五 三 判 部冊部冊一二の送 料 各壹圓八拾錢 拾

(3)

鈴木芳松先生著 間崎勝義先生著 啊勝義兩先生共譯 普 通 捷 全譯 講義 講義 誤 徑 新形中判〉定 新形中判 三大判美本 定 四上五 六 製 百 美 余 判本頁 定 送 定 送 價 金金金 金壹圓貳拾錢 七 金 拾五錢 顶

間崎勝義先生著 鈴木芳松先生著 詳 詳 義先生著 第讀 四本 講 講 義 記 五百余夏 三上全 三百余 ニニ 六 明 定 定 六 判 頁 外 本 册 上中下送 定 定 送 卷卷 料 價 料 金豐圖三拾錢 + 二拾錢 六 流

# 中等英語研究會編

改邦訂語 邦語 改邦訂語 英 文 法 法 法 法 ほ 初 初 捷 捷 步 徑 步 徑 3 二百八十頁 送料 金八錢 二百八十頁 定價 二百四十 二百四十 四 四 \* 9~定價金九拾錢 版 頁 定 送 定價金七拾錢 金八錢

等英語研 **投谷川康兩先生共編** 究會 究會 語 法 修 講 講 講 讀 本 義 義 二年程度 定 四 全 三自至 三二五 六 三 六一五 六 判 一三年程度金七拾五錢 9卷卷 判卷卷 定 送 定送 数 三 百 鈴 頁 份 各 金 十 二 錢 價料豆 價 料 各 各 金各下 金 五金續 六 十六刊 錢錢



71

先生著 八波則吉先生著 八波則吉先生著 學 男 修 講 話 新形上製定 四六判上製一四六判上製 上製物版定 菊版上製 定 途 定 送 料 價 價 料 價 料 價 料 金豐圓五拾錢 金豐圓五拾錢 金 金 金 金 金壹圓五拾錢 拾 拾 拾 演 預 頑 貮

(9)



臨 良 終 四 六 版 四上製 四上製炭 四 六 版本定途 版本定送 版本定途 定 送 料 金 拾 貮 錢 價 料 價 料 金豐圓頂拾錢 金頂圓三拾錢 金

爬 る人諸 先生著 先生著 類 皇 講 室 0 話 話 新形上製 定價 四 六 版 定 四 六 版 定 四天 会美 版 定 途 價 料 價 料 金壹圓五拾錢 金 金壹圓八拾錢

谷 繞 石 先 生著 0 講 答 新型中與東 新百合餘頁 四六版上製 三 百 廿 頁 四六月二十月 ----定 送 定 送 定 送 定價 價 價料 價料 上下 料 金旗圓旗強發 金十 佥 六

(12)

康先生著 F. 9, \$ 新上百 型 八 中 判製頁 新上百八十月製工 新上百型 五中十 新型中 三百餘 判製頁 -----定 送 定送價料 定 送 定送 價料 價 料 價 料 金金 金 金 金 + 二旦 二旦錢 圓 錢

